

議事録	
件名	第9回にかほ市風力発電に係るゾーニング協議会 議事録
日時	令和3年2月8日(木) 14:00~16:00
場所	インターネットによる開催(Web会議システム「GoogleMeet」)
出席者	にかほ市風力発電に係るゾーニング推進協議会員名簿
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・会員名簿 ・資料1:過去協議会意見への対応について ・資料2:今年度の事業進捗について ・資料3:ゾーニング報告書の作成状況について ・別紙資料1:工程表 ・別紙資料2:飛翔コウモリの通過個体数確認の試み(1999) ・別紙資料3:住民向けパンフレットドラフト版(にかほ市風力発電ハンドブック)
結 果	
<p>(1) 過去協議会意見への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1:過去協議会意見への対応について ・【辻委員、杉本委員、温井委員、石山氏(阿部委員の代理)、今井委員】特に無し。 ・【中村副会長】高校生を対象としたイベントの中止は残念であるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点では致し方ないと考えている。 <p>(2) 今年度の事業進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2:今年度の事業進捗について ・別紙資料1:工程表 ・別紙資料2:飛翔コウモリの通過個体数確認の試み(1999) ・別紙資料3:住民向けパンフレットドラフト版(にかほ市風力発電ハンドブック) ・【温井委員】景観モニター調査について、離隔距離 1.5km 以内の場合、垂直見込み角はどれぐらいの角度となるのか。 ⇒【委託事業者】風車サイズを 140m と想定しているため、7° ~8° かと思われる。 ・【温井委員】資料2の 15 ページ目の AR 映像の様に、既存風車がみえる場所にさらに風車を追加したケースが多かったのか。 ⇒【委託事業者】そのようなケースは少なかった。本調査では、促進エリアまたは調整エリアが見える場所という条件のみを指定して調査した。その結果としては、既設風車があるからという理由で調査地点を設定しているというケースはあまりみられなかった。 ⇒【温井委員】既設風車がみえているケースの割合はどれくらいか。 ⇒【委託事業者】24 件中 2 件であった。次のように訂正する。既設風車と設定した風車の両方がみえているケースは 24 件中 10 件であった。なお、既設風車の存在を明確に考慮して景観を評価しているケースは 24 件中 2 件であった。 ・【温井委員】以前の協議会において小型風車を扱うかという議論があったかと思うが、今回は扱わないということになったということか。 ⇒【事務局】小型風車を扱うかという議論は、ゾーニングの対象に含めるかという議論であったと記憶している。その後、昨年度の協議会において、風車規模の上限や下限を設けず、小型も対象と含めるという結論となった。モニター調査では、小型風車は対象としてない。 ⇒【温井委員】手法としては、小型風車も対象とすることは可能か。 ⇒【委託事業者】可能である。 ・【星崎委員】景観モニター調査は非常に面白いが、同じ AR 映像を異なる人が見た場合、印象評価は違うものになると思う。なぜ 24 件の結果について、モニター同士でレビューしなかったのか。 ⇒【委託事業者】同じ AR 映像について複数者から意見をもらうことは想定しなかった。ご指摘のとおり 	

り、web 会議システムを使うなどして、相互にレビューしていただくことはできたように思う。
⇒【星崎先生】24 件というのは数として少ない。参加者同士でレビューし合えた方が、よりよい成果となったのではないかと思う。懸念としては、この調査結果をどのような重みづけで扱われるかということである。可能であれば事業者に対して、この調査結果を踏まえて、フォトモンタージュによる景観調査だけでなく、この様な住民向け調査の実施を促すといった情報提供をしてはどうか。

⇒【丸山会長】ご指摘のとおり、各個人の評価を踏まえ、web 会議システムを使うなどして、相互に話し合う機会も持てたと思うが、期間や工数的に厳しいものがあつたというのが実情ではないかと思う。

- ・【丸山会長】景観モニター調査に参加した住民の属性はどのようなものか。以前に実施したワークショップに参加した方であるのか、今回の調査が初参加の方も含まれていたのかといった情報はあるか。
⇒【委託事業者】対象としては、ワークショップの参加者に限らずに募集した。その中で、ワークショップに参加した方から参加申し込みがあつたということを事務局より伺っている。
- ・【杉本委員】コウモリ調査について、St.2 のみセンサー位置が高いようにみえる。
⇒【委託事業者】St.2 は 5m、その他の地点は 2m の高さに設置している。St.2 は樹林帯のため、なるべく樹林の上を飛翔する個体のデータを取得する狙いで設定した。
- ・【杉本委員】資料2の 10 ページ目の風速 6m/s 超における確認数について、8 月 7 日と 8 月 9 日だけ数が多いのは、コウモリの移動があつたと考えてよいか。
⇒【委託事業者】データ数が少ないため断定はできないが、前後の推移をみると、風速というよりもむしろ移動のタイミングが集中したものを確認した結果と解釈している。
⇒【杉本委員】St.2 と St.3 において風速が高い場合の結果はどうであつたか。
⇒【委託事業者】St.2 と St.3 では、資料2の 8 ページ目の表に示したとおり、そもそも風速が低かつた。
- ・【辻委員】景観モニター調査について、生活圏の近くにおける景観への影響に高い関心を示すとあるが、年齢構成はどのようなになっているか。
⇒【委託事業者】年齢や性別、居住地といった属性の情報は取得していないため不明である。
⇒【辻委員】傾向として、近くに風車がある場合の景観に関心が高いということで了解した。
- ・【石山氏】景観モニター調査について、興味深く聞かせてもらった。一方で、調査に応じてくれた人数が少ないため、調査結果を参考情報とする上で、属性がわかればよかつたように思う。
- ・【中村副会長】景観モニター調査について、データ数は少ないが、貴重なデータが得られたのではないか。一方的に風力発電に賛成する、または反対するでもなく、冷静に評価してもらえているようにみえる。1.5km という値が正しいかはわからないが、風車に近ければプレッシャーを感じているという評価が多く、信頼度の高い結果であるように思える。ステークホルダーへのインタビュー結果についても、賛成・反対・中立の方もいたかと思うが、前向きな回答も得られており、よい結果ではないかと思う。
- ・【星崎委員】コウモリ類調査について、そもそも何を目的としたものであるか再確認したい。
⇒【委託事業者】文献調査を実施する中で、コウモリ類の生息情報があり、獅子ヶ鼻湿原での捕獲調査のデータはあるものの、それ以外の実測データがなかった。風力発電を考える場合、配慮書に近い位置づけのゾーニングにおける環境把握では、渡り鳥や猛禽類以外にコウモリ類のバツトストライクという影響が指摘されている。そのため、コウモリ類の生息状況や、季節的な活動の変化等について把握するため、環境が異なる 3 地点で調査した。より詳細な生息状況を把握するためには、地点数や高さなどが十分でないといった限界がある。本調査では、種名までは特定できなかったが、コウモリ類の生息の有無、重要種に該当する個体が生息しているだろうということは把握することができ、また、風速が高い場所でも飛翔する可能性があるというデータも取得できた。
⇒【星崎委員】昨年度の調査は生息有無の確認、今年度の定点調査は時間的な活動の変化の確認ということでよいか。また、詳細な調査については、事業者が個別事業のアセスで対応してくださいということでよいか。
⇒【委託事業者】1 点目はその通りである。一方で調査の限界というものがあつて、2 点目の回答になるが、アセスでは捕獲調査や目視調査といった詳細な調査を実施していく必要があるということも、今回の調査からわかつてきたのではないかと思う。

⇒【事務局】今回のゾーニングの調査において生息の有無が確認できたため、個別事業のアセスにおいて詳細な調査をしてください、と示すことが一番の目的であると認識している。

⇒【星崎委員】この場所にこの種類のコウモリが存在するから、促進エリアないしは調整エリアに指定するといった整理が必要だったのではないかと。一方で、それが無理難題であることも承知しているため、報告書ではそのことを示唆するような、理解が得られるような記載をした方がよいのではないかと。

⇒【事務局】目的や手法については、これまでの議論を踏まえて設定しており、事業説明会等の場においてもそのように説明しているため、いまから変えようがないが、報告書において対応できることは対応して、のちほど共有したい。

⇒【丸山会長】コウモリ類調査に限らず、調査の限界は明記する必要がある。一方で、風力発電の導入に慎重な声が少なくない地域でもあるため、行政が客観的なデータを取得しているということが重要な意味を持つとも考えている。例えば、事業者がアセスを実施した際、コウモリ類が存在しないという調査結果を示してきた場合、ゾーニングの調査において生息が確認できているという根拠を行政側が持っていることが、今回の調査の意義であると思う。報告書では、そういったデータを行政自身が持つという調査の意義も記載すればいいのではないかと考えている。

- ・【温井委員】景観モニター調査について、統計的に整理することは大事であるが、個々のケースの結果も大変興味深い。地域の実情をよく知る住民の方々が考えて映像を作っているため、非常に貴重な情報ではないかと思う。ステークホルダーに自然保護団体と記載されているが、にかほ市において、景観に関心のある団体はあるのか。

⇒【事務局】今回の調査の自然保護団体は、動植物を主とした自然保護観察指導員となる。一方で、仁賀保高原などの案内も行っているため、景観に対する関心の程度や専門的な知識の有無はわからないが、にかほ市の優れた景観に対する豊富な知見はあるのではないかと想定している。

- ・【星崎委員】資料2の6ページ目の活動時間について、調査期間が6～11月であるため、日没・日の出時刻に幅があるのではないかと。

⇒【委託事業者】ご指摘のとおり、日没・日の出時刻に幅があるため、それがわかるように整理したいと思う。

⇒【星崎委員】6ページの図はこのままにして、日没後○時間、真夜中、日の出前○時間、くらの括りで集計し直した図を作成したうえで解釈してもよいのではないかと。9ページ目も、何月か(何時か)というデータも変数に加えて解析したほうがよいと思う。

⇒【委託事業者】ご指摘を踏まえて解析したいと思う。

(3)ゾーニング報告書の作成状況について

- ・資料3:ゾーニング報告書の作成状況について

- ・【事務局】ゾーニングエリアの名称について、「促進エリア」を「導入可能性エリア」に変更し、「導入可能性エリア」、「調整エリア」、「保全エリア」の3区分とすることを提案するが、いかがか。

⇒【中村副会長】事務局の提案に賛成する。

⇒【丸山会長】行政の意見を尊重してよいと思う。ほかに異論が無いため、事務局の提案を認めるものとする。

- ・【丸山会長】本日の協議会での意見については、適宜、報告書に反映するようにお願いする。最後に、委員やオブザーバーからコメントあれば伺いたい。

- ・【温井委員】ゾーニングマップで、市街地付近で導入可能性エリアがあるので、その部分を詳細に確認していきたい。

- ・【辻委員】特に無し。

- ・【杉本委員】特に無し。

- ・【中村副会長】以前の協議会において、海岸付近が導入可能性エリアになっていた箇所は見直した方がよいと思う。

⇒【丸山会長】その部分は修正済みであったかと思う。

⇒【中村副会長】承知した。

- ・【石山氏】特に無し。

- ・【今井委員】特に無し。

- ・【曾田専門官】特に無し。
- ・【星崎委員】好き勝手申しあげてご迷惑をお掛けした。導入可能性エリアの名称に関しては、代替案もないためそれでよいと思う。私自身も勉強になった。
- ・【事務局】参加各位には 3 年に渡ってご協力いただき、誠に感謝している。事務局だけではここまで事業を進めることはできなかった。今後も報告書のとりまとめがあるため、引き続きご指導いただき、情報交換をしていきたい。

以上